

新たな町の拠点が完成

町民の利便性向上



交流の拡大が期待される「くずま〜る」

9月定例会議

9月定例会議は、9月1日から8日までの8日間の日程で行われました。町長から提出された議案は、4年度会計の決算認定のほか5年度補正予算など8件が提出され、原案どおり『決定』しました。

一般質問は4人の議員が登壇し、町の対応や考えをいただきました。

前年度比支出4億円増

決算の概要
4年度全会計の総支出額は、105億4140万円の前年度比4億4572万円4・4割増加しました。

一般会計の支出総額は、94億969万円の前年度比5億358万円5・7割増加しました。主な要因は、新庁舎建設事業や高齢者福祉施設建設事業の増によるものです。

三つの特別会計の支出総額は、11億3171万円の前年度比5786万円4・9割減少しました。地方債は159億2436万円の前年度比13億671万円8・9割増加しましたが、臨時財政対策債の繰上償還を実施し、財政健全化の取り組みも行っていきます。

一般会計決算の詳しい内容は、4、5ページをご覧ください。

ご覧ください。

財政健全化対策を評価

監査委員の意見
4年度決算は全ての会計が黒字となりました。歳入では、普通税と国税を合わせた徴収率が前年度を上回り、法に基づいた不能欠損の実施と徴収への取り組みを評価します。

また、全会計の地方債残高は前年度に比べ増加したものの臨時財政対策債の繰り上げ償還を実施し、財政健全化対策に努めているところも評価します。

4年度は、町民待望の複合型新庁舎「くずま〜る」が開庁されました。新庁舎は、様々な機能が集約されており「新たなまちの拠点」として、町民の利便性の向上につながるものと考えます。

町長5期目の所信 政策実現に全身全霊を



5期目は、4期16年間で取り組んできた施策にさらに磨きをかけ、当機立断の行動と決断により、新たな「町の魅力をさらに高める3つの挑戦」に取り組みます。

一つ目の挑戦は、「持続可能なまちづくり」「魅力高め、活力のある生活基盤の形成」です。町民が安全・安心に、幸せな生活を送ることのできる環境を整え、生活や経済活動の新たな基盤整備などの施策に取り組みます。

二つ目の挑戦は「循環するひとづくり」「地域で育み、社会で活躍する人材の育成と確保」です。子ども

たちが、未来へ希望を持ち健やかに成長ができるよう支援し、子育て世代に選ばれる町づくりを目指します。

三つ目の挑戦は、「次代につなぐしごとづくり」「産業・社会・生活のトランスフォーメーション」です。先人が築き上げた産業をさらに発展させ、町の持つ様々な魅力や資源を最大限に活かした仕事づくりや観光振興などに取り組みます。

これまで培った経験や人脈を最大限に活かし、多選でなければ実現することができない政策の実現に挑戦します。

この先4年間、「新たな可能性に挑戦する、町民主体のまちづくり」「山村のモデルとなる光り輝くまちづくり」に全身全霊をかけて取り組み、町民が幸せを実感できる、住みよいまちの実現を目指します。

4年度決算の状況

会計名	収入	支出	
一般会計	103億3380万円	94億699万円	
特別会計	国民健康保険事業	8億4804万円	8億3707万円
	農業集落排水事業	2億1568万円	2億1129万円
	後期高齢者医療事業	8753万円	8334万円
合計	144億8507万円	105億4140万円	



意見書を提出する馬淵代表監査委員

財政健全化判断比率は「健全」を維持

「財政健全化法」に基づく4年度の一般会計、特別会計、第3セクターなどの決算を含めた各指標は、いずれも基準を下回りました。

●健全化判断比率

各指標	4年度	3年度	比較
実質赤字比率 (15%)	赤字なし	赤字なし	-
連結実質赤字比率 (20%)	赤字なし	赤字なし	-
実質公債費比率 (25%)	7.9%	8.3%	△0.4
将来負担比率 (350%)	12.8%	なし	皆増

※各指標（ ）内の早期健全化の基準で、数値が低いほど健全な財政運営になります。
※将来負担比率は、将来負担見込額が充当可能な財源の額を上回りました。

●資金不足比率

経営健全化基準は20%未満で、対象となる農業集落排水事業の資金不足は発生していません。